

6. 過去の提案等取り組み状況

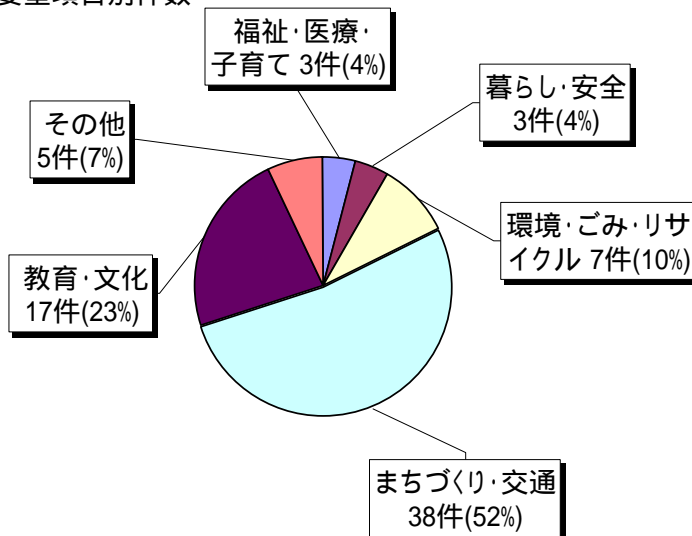
平成 20 年度 “ タウンミーティング 「 市長と語る 」 ” 提案等取り組み状況

テ ー マ わがまちの魅力再発見 ～八王子力をまちづくりに～

各会場の実績

開催日	会場 (ミニコンサート出演大学)	地域	地区	福祉・医療・子育て	暮らし・安全	環境・ごみ・リサイクル	まちづくり・交通	教育・文化	その他	合計
5月17日	市役所本庁舎 (東京造形大学)	中央	本庁	0	0	0	4	3	1	8
5月24日	由井市民センター (中央大学)	東南部	由井 北野	0	0	0	3	1	0	4
5月31日	由木東市民センター (中央大学)	東部	由木 東大沢	0	1	4	8	2	2	17
6月14日	恩方市民センター (創価大学)	西部	元八王子 恩方川 口	1	0	0	13	5	0	19
6月21日	横山事務所 (中央大学)	西南部	浅川 横山 館	1	1	2	4	3	0	11
6月28日	石川市民センター (中央大学)	北部	加住 石川	1	1	1	6	3	2	14
合 計				3	3	7	38	17	5	73

市政への要望項目別件数



ご意見・ご提案をいただいたその後の取り組み状況の一例をご報告すると

平成 20 年 5 月 17 日・市役所本庁舎【中央地域】

< 意見 > 《西八王子について》

西八王子をなんとかしてほしい。

(峯尾 仁 様)

市長 八王子駅南口の次に高尾駅の整備をすることになっている。高尾駅は南から北に自由に行けない状況になっており、高尾駅と北口駅前広場の整備を計画している。南北自由通路も整備する計画をしている。西八王子駅は一方通行化して整備しようと考えている。駅と甲州街道の間の道も整備し、今、自転車がたくさん停まっているがバリアフリー化した歩道を設置する計画である。

【対応】 西八王子駅北口駅前周辺交通環境の改善については、平成 18 年 5 月より地元町会や商店会の方などが構成員となる協議会で改善策を検討しており、平成 19 年 2 月に「西八王子駅北口交通環境改善検討調査報告書」を作成している。

報告書にある基本コンセプトの「安全で人にやさしい西八王子」の実現に向け、歩行者・自転車に重視した安全・安心な道路整備を行うため、平成 20 年度には市道 289 号線（駅と甲州街道の間の道）の工事を実施し、平成 21 年度以降も報告書にある一方通行化や歩道改良、歩道設置などの整備を実施する。

平成 20 年度	市道八王子 289 号線	延長約 227m	道路整備（済み）
平成 21 年度	市道八王子 284 号線	延長約 300m	道路整備（予定）
平成 22 年度以降	市道八王子 285 号線	延長約 110m	道路・電線共同溝整備（予定） （一方通行化含む）

< 意見 > 《八王子力について》

八王子駅の南口が再開発され、玄関口が立派になると思う。八王子は何を核にするのか。「八王子力」というのは、今までの考えではいけないと思う。八王子には城・たくさんの名刹・古刹（寺）があり、八王子織物の絹、そして遺跡がある。芸能でいくと車人形がある。これら先人が残してくれた文化を中心として、核として、八王子が活性化していくのではないかと

(橋爪 寛行 様)

市長 八王子の魅力については同感である。まちは生き物である。固定化されたものではなく、産業構造も変わってきた。八王子が今、誇れるのは、ものづくりの企業が集積していることで、全国でも注目されている。これは素晴らしいこと。時代にあったものを、どう行政として支援していくのか。まちづくりに活かしていくのか。城や寺も素晴らしい。千人同心の歴史もある。これらをまちづくりに活かしていかなければならない。高尾の里づくりに取り組んでいる。22 年度までにやる。八王子の良いところを活かしたまちづくりを必ずしていく。

【対応】 歴史、文化、自然などをすべて本市の観光資源としてとらえており、「八王子まるごと

観光」を掲げ、八王子の魅力の発信及び観光振興に取り組んでいる。

平成 20 年 5 月 24 日・由井市民センター【東南部地域】

< 意見 > 《みなみ野遺跡について》

みなみ野では、39 か所で 1 万 6 千年前のものが見つかっている。200 人くらい入れる 23m もの大型住居が見つかっており、これは東日本でひとつかふたつしかない貴重なものである。

御殿山窯跡群は、200 か所あるうち 73 か所見つかっている。この貴重な財産を子どもたちに伝えていくのは必要であると思う。この地域にあったものを考えるべきである。とても大事な教育ではないか。「湧水マップ」のように、地域の子どもたちに伝えていくことが大切。郷土資料館も古くなってきている。現物を見てもらうのが一番伝わる。

(武藤 真啓 様)

市長 貴重な提言をいただいた。私もその通りだと思う。地域を知るということで、子どもたちや新しく市民になった方が、ふるさと意識を持ってもらえる気持ちが醸成できる。非常に大事なことだと思っている。八王子は遺跡がたくさん出ている。それを、子どもたちに何らかの形で教育の中に取り入れることは、価値のあることだと思っている。郷土資料館はすごく大事だと思う。資料館は古くなってきた。資料が入りきれず、廃校になった学校を倉庫にして保管している。しかし、見てもらうことで価値がある。資料館は、いずれやらなくてはならないと思っている。ただ、優先順位がある。提案を活かせるよう努力する。

【対応】 市立小学校全校では、八王子の歴史に関する学習を必ず行っており、その際、遺跡等の見学を行っている学校もある。

郷土資料館では、みなみ野の発掘調査時に出土した遺物のうち何点かを展示している。また、遺跡マップを配布しているが、これをさらに充実させていく予定である。

< 意見 > 《自治会の会館について》

町会で一番困っているのが、自治会の会館がないことである。活動をしにくいということである。昨年のタウンミーティングの取り組み状況をみると、「ふれあいサロン」事業を行っていることを、初めて知った。私たちの町会にも是非ともそういう場をお願いしたい。

(江頭 和昭 様)

市長 みなみ野地区は、急激に人口が増え、活動の場が十分ではないということは、よく承知をしている。ただ、みなみ野地区を最優先にはなかなかできない。従前からある町会でも知恵をだしあって、皆さんが積み立てをして、一定の基準に応じて市が補助金をだして建て替えをしている例もたくさんある。市ができることには、限界と順序がある。「片倉集いの森公園」を整備する。その中で管理棟を設置するので、そこを使えるように整備し、当面の間、活用していただくということで、ご理解いただきたい。今のところ、各町会で会館を持つという段階ではないと思っている。

【対応】 片倉つどいの森公園の管理棟については、平成 21 年度工事の中で新設する予定。その後、基本的には町会が中心となったアドプト団体が管理することになる。会館としても利用できるように建設する予定。

また、「ふれあいサロン」は、高齢者が気軽に集える場を地域住民自らが提供することで、高齢者の外出機会の増加や引きこもりの解消を目的とした事業。これまで、社会福祉協議会において本活動を推進し、支援してきたが、本年度（20年度）より、本市においても支援事業をスタートさせた。

現在のみなみ野地区での活動を見ると、みなみ野君田小学校を拠点として活動する団体がある。また、支援事業においては、会場として有料施設を借り上げた場合の経費も助成の対象にするとともに、地域の高齢者相談機能を持つ「地域包括支援センター」においては、立ち上げや運営のお手伝いも行うので、お住まいの地域で活動をお考えの場合は、是非ご連絡願いたい。

平成 20 年 5 月 31 日・由木東市民センター【東部地域】

< 意見 > 《要援護者の避難支援について》

災害時における要援護者の避難支援について、お願いしたい。民生委員として、昨年来「災害時一人も見逃さない運動」を展開し、地域における要援護者のリストを、本人の同意を得た上で作っている。一日も早く、防災関係部局と福祉部局と合同で支援体制を作って欲しいというのが要望であった。先日、防災課の研修があり、これから地域に応じた具体的な対策を講じていくことがわかった。民生委員として、そのようなことをしていることを知っていただくことも必要だと思い発言した。さらに、連携について進めてほしい。

（坂本 睦枝 様）

市長 民生委員の皆さんは、地域福祉を考えた時、なくてはならない存在で、大変感謝している。個人情報保護がいきすぎていると感じることがある。地域によっては、自主防災組織が積極的に作り、地域で助け合いの態勢ができていく所もある。八王子市は 61% 自主防災組織ができており、東京都の中で最も高い数字である。ここで、「災害時要援護者避難支援プラン」を作成する。これは、高齢者・障害者に対する情報伝達・安否確認・避難誘導等の手引きとなるもので、今、進めている。平時から、要援護者情報を地域のみなさんと共有できて、支援するという態勢を構築することが大事だと思う。民生委員の皆さんの協力は不可欠である。是非、中心になってお力添えを賜りたく、お願いしたい。

【対応】 災害発生時における高齢者、障害者をはじめとする災害時要援護者の避難支援体制の整備推進を図ることを目的とした「八王子市避難支援プラン(全体計画)」を作成中である。平成 21 年 2 月、同プラン全体計画(素案)に対するパブリックコメントを実施。市民から寄せられた意見や庁内での検討事項を素案に反映させて、今年度内に全体計画を作成する。市民への周知は、広報平成 21 年 4 月 15 日号やホームページ等で行う予定。

来年度以降は、福祉部門とともに災害時要援護者一人ひとりに対応した「個別計画」を作成していく。

また、研修などを通じて、本人の同意があれば、要援護者の方の個人情報を関係機関で共有できる旨を職員に周知した。災害時等の非常時には、本人の同意がなくても共有することも合わせて周知した。

<意見> 《大学と市民の連携について》

大学と市民との関係をより密にして、学びたい市民、特に団塊の世代の人に大学を開放するよう連携を持つ。また、学生が市民の中に入り、お互いに真理を求め合う姿勢が大事である。

(深澤 道則 様)

市長 大学との連携は、積極的に行っている。例えば、八王子の市民大学である八王子学園都市大学(通称いちょう塾)がある。23の大学すべてが講座を出している本格的な市民大学は、八王子が初めてではないか。生涯学習の場として、これだけ多くの方が参加する市民大学は他にない。中学校の部活の指導の手伝い等、色々な角度でやっていただいている。また、外国人留学生3400名の方たちにも色々な協力をいただいている。まちづくりにも協力をいただき、八王子のことを理解していただく努力もしている。

【対応】 平成20年12月3日に実施した外国人観光モニターツアーに留学生の方にも御参加いただいた。また、平成20年11月16・22・23・24日に設置した高尾山臨時観光案内所において、杏林大・拓殖大の学生ボランティアに外国人観光客のアンケート調査や観光案内の通訳に御協力いただいた。

平成21年4月に学園都市づくりを統括する組織「大学コンソーシアム八王子」を設立し、効果的、効率的な事業を行っていく。コンソーシアムでは、大学の図書館、運動施設の開放拡大や学園都市大学「いちょう塾」の連携など、さらなる市民の生涯学習の推進を図っていく。

平成20年6月14日・恩方市民センター【西部地域】

<意見> 《街路灯の管理について》

街路灯の管理について、高照度型の街路灯への切り替えをすすめている。明るさが2倍になって、電気量が半分になるらしい。市が半分負担してくれる。街路灯の市の補助は、電気料は全額負担してもらっている。機器の交換や新設は、頭打ちがあるが半額市が負担するとなっている。町会の負担は大きい。町会を抜ける傾向がある中、町会に入っていない人は街路灯の負担がない。不公平な不平等な体制になっていることが、納得いかない。平等に負担する方法はないものか。街路灯の設置費用を町会が負担していることを知らない住民が多い。もっと宣伝をして、町会の加入をさせていく施策をとるとか、公平性を前に推し進められる方法を、市のほうでも考えて欲しい。

(塚原 京史 様)

市長 確かに町会に入っていない人は、こういうことを知らない。関心を持ってもらえない部分もある。理解をしてもらえるようにPRしてもらえないかという話もきている。もっと、町会自治会の活動の内容やどういうことに努力をしているのか等を、広報等でPRする。これは大事なことだと思う。八王子は幸いにして、地域コミュニティが確立をしている。よそのまちに比べると、非常に恵まれた地域だと思う。多くの人に参加してもらって、町会・自治会のあり方を理解していただき、協力いただくのは大事なこと。提案いただいたことをきちんと理解し、取り組む。

【対応】 「広報はちおうじ」10月1日号にて「特集：町会・自治会の活動」と題し、町会・自治

会活動に関する記事を掲載し、防犯灯の設置をはじめとした防犯・防災活動や文化ふれあい活動など、町会・自治会が担っている活動の大切さについて周知するとともに、町会・自治会への加入の呼び掛けを行った。

<意見> 《路上パフォーマンスできる場所について》

まちの魅力はいろいろあるが、芸術家がいるのはまちの魅力のひとつだと思う。市街地に、路上でパフォーマーが演じられる場所を造ってほしい。

(飯田 秀雄 様)

市長 まちの魅力は多方面である。新しい魅力をつくっていくことも大事なことだと思う。パフォーマンスができる場所、本当は北口のペDESTリアンデッキをもう少し広くすれば、私は残念に思う。そうすれば、あそこでイベントができる。健全な場所で、車にも歩行者にも影響がなく、歩行する人が楽しめる、パフォーマンスする人が一生懸命やれる。今、南口で整備を行っているので、南口は本当の意味でのデッキにしようと思っている。そこがイベント会場になる。

【対応】 八王子駅南口のペDESTリアンデッキについては、現在橋梁基礎部の工事が終了しており、平成 21 年度から橋梁本体工事に着手していき、平成 22 年秋の完成を目指している。また、このペDESTリアンデッキが市民に親しまれるよう広報等で愛称を募集したが、昨年 11 月に「とちの木デッキ」と決定している。

平成 20 年 6 月 21 日・横山事務所【西南部地域】

<意見> 《自治会の自主運行バスについて》

紅葉台自治会では、開発以来 30 年以上経過し、当初から公共の交通機関がなく坂道も多く高齢者も増え、バスの必要性が高まり、平成 14 年の 10 月から自治会独自で循環バスを運行している。今や自治会にとっては、なくてはならない足となっている。若干の赤字になっているが、業者の努力によって何とか運営を続けている。運営の存続にも苦慮している状況。今更なくす訳にはいかない。存続のために、市の支援・協力がいただけないか。

(片桐 亮 様)

市長 紅葉台自治会で循環バス自主運行されているのは、よく承知している。皆さんの努力に敬意を表したい。規制緩和の関係で、採算が採れないところはやめてしまう。車を持っている人が多く、バスを使わないため、維持が難しくなってきた。なくならないために積極的に活用しようという姿勢がない。運行が難しくなるのではないかと考えている。タクシーを活用するなど新しい方法に取り組んでみようと思っている。紅葉台自治会で循環バスを自主運行されているのは、大変苦労されているのだろうと思う。同時に、いつまでも続けられるかどうかは他の地域の例から見ても心配をする。どういうシステムを作るかというのはこれから考える。支援を出来るような体制を考えていきたい。そうしないと駄目だと思う。これは考えてみたいと思う。検討させて欲しい。

【対応】 現在、交通空白地域の補助制度は、要綱作成をしている山間地域についてのみあるが、

21 年度以降、市民に分かりやすい対策マニュアルや要綱を作成し、22 年度からは、市が地域に支援出来るように検討していく。

< 意見 > 《石平道人^{せきへいどうじん}の顕彰について》

石平道人こと鈴木正三は、非常に立派なお方であった。お墓が市の史跡の 7 号で指定されている。鈴木正三を顕彰すべきである。心を失ってきた現代に、もう一度良く顕彰しなければならない。境内に大きな古木があり、いつ倒れるかわからない。素人では切れないので伐採してほしい。

せっかく史跡になっているのだから、お墓の整備をお願いしたい。史跡に興味を持ってほしい。北条氏照の家臣であった井上出羽が呼んだ。18 代目にあたる子孫の方も健在であり、ご一考願いたい。史跡として指定した市の最低の責任だと思う。

(篠原 清彦 様・福島 得治 様)

市長 今日の良い勉強をさせてもらっている。私も、今回の話をいただくまで石平道人のことを知らなかった。八王子には顕彰すべき大事なものがたくさんあるのだと改めて感じた。古木については、長泉寺の境内なので長泉寺に言ってほしい。危険性があるのであればなんとか処理をしなければならないが、管理が長泉寺なので勝手に切るわけにはいかない。長泉寺に言って、長泉寺から市のほうに話をしてほしい。現場をみて考えてみる。

【対応】 管理者である長泉寺からの補助金交付の申請を受け、史跡保護の環境整備として、枯れ木の伐採を平成 21 年度に実施する予定である。

平成 20 年 6 月 28 日・石川市民センター【北部地域】

< 意見 > 《八王子小児病院の存続について》

2010 年 3 月で廃止予定の八王子小児病院を残してほしい。29 年前は、障害のある赤ちゃんを診てくれるところがなく、御茶ノ水まで通った。八王子小児病院に専門医が来てくれ、障害をもつ子の親は喜んだ。その後、高尾駅南口の都有地に小児病院を移転拡充するという話があり、大喜びした。ところが都の態度が急変し、清瀬と世田谷の梅が丘と八王子小児病院を統合し、府中に造るという計画が発表された。本当にショックを受けた。昨年府中の小児病院医療センターの建設が始まったが、私たちはあきらめられない。何とかもう一度、市長が先頭に立って八王子・三多摩の子どもたちのために頑張してほしい。

(矢代 美知子 様)

市長 市長になって一番残念なのは、小児病院の問題。都議時代に携わっていて、90 床を 150 床にして周産期医療が出来るような病院ということで、東浅川に場所を移し規模も面積も発表までしてくれたのが変わってしまった。産科・小児科の医者が極端に少なくなってきたことが背景である。今のままだと 3 か所ともギリ貧になってしまう。小児病院だけではなく、総合的に連携がとれるように府中に大型のものを造るということ。府中の病院は既に進んでおり、これはもう進めるべきであろう。後は抜けた穴をどうするかが課題で、今、全力で取り組んでいる。協議を進めており、近いうちに方向性が示せるのではないかと思います。

っている。

【対応】 都立八王子小児病院の移転は決定した。

しかし、移転後の八王子地域における小児医療をいかに確保・充実させるかを、東京都と協議を重ね、平成 20 年 9 月に基本的な方向性を示すことができた。具体的には、一次医療は市内の診療所が、二次医療は二つの中核病院が、三次医療は府中の小児総合医療センターが担うものであり、また、小児病院移転後の跡地を活用して小児外来診療や重度障害児の通所事業を新たに展開するとともに、夜間救急診療所を移転整備するもの。今後は、東京都と共に、この方向性に沿った小児医療の施策を、実行していく。

<意見> 《小・中学校の耐震補強工事について》

子どもが小宮小に通っていて、今、耐震補強工事を行っている。八王子市内の小・中学校の耐震補強工事の進み具合を教えて欲しい。

(内田 様)

市長 八王子はまだ 60%を切っている。今、大車輪で取り組んでいる。平成 24 年までには全部耐震工事は終えようと前倒しをし、100%耐震を行う。小学校が 70 校・中学校が 37 校・小中一貫校の高尾山学園があり、108 校である。東京都で最も多い。人口は 6 番目くらいだが、学校が一番多い。市街地で同様の地震が発生した時には、大きな被害が生じるということは目に見えてわかる。その時に一番身近なのは、小・中学校である。避難するには近いところにあり、校庭も広い。身近な避難場所が安全で安心できるような状況にあるということは、必須条件である。全力で取り組んでいるのでご理解ください。

【対応】 平成 20 年度には校舎の耐震補強工事を 3 校で、耐震設計された体育館の改築工事を 2 校で実施した。その結果、耐震化率は校舎が 73.83%、体育館が 31.77%となっている。平成 21 年度は、校舎 2 校、体育館 2 校の耐震補強工事を行うほか、校舎 21 校、体育館 19 校の実施設計、体育館 35 校の耐震診断・実施設計を行い、平成 24 年度に全校で耐震化工事が完了するよう、全力で取り組んでいく。